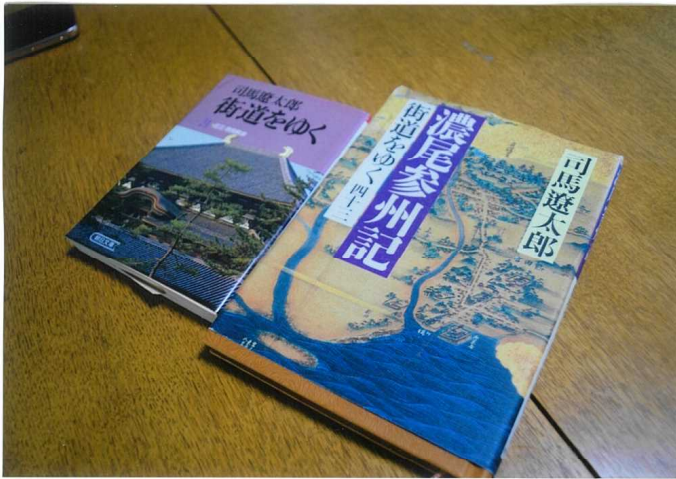


環境教育 「まず、今できることから」

歴史に学ぶ

発行所：地域環境活性化協議会
 編集者：代表幹事 高橋賢一
 連絡先：市民活動支援センター
 尾張旭市渋川町三丁目5番地7
 (渋川福祉センター内)
 TEL 0561-51-2878

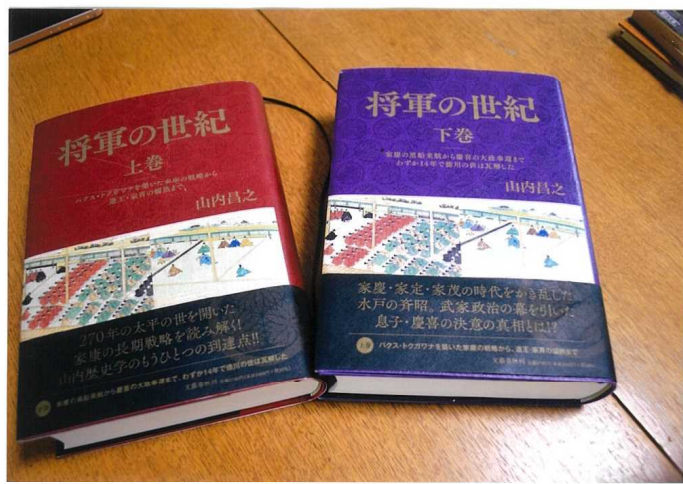


「おわら風の盆」

富山市八尾町で地元の入らが踊り、見物の観光客らでにぎわう「おわら風の盆」の開催は9月の下旬二十日すなわち立春から数えて210日目のころにあたり、豊作を祈り風の災害が起らないことを願って「風の盆」と名付けられたと伝わる踊りの一つ豊年踊りには種まきや稲刈りなどの動きを表す。
 歌い継がれた歌の一つからも風への恐れはうかがえる。
 へ二十日に風さえ吹かば早稲の米喰で、オワラ踊ります

「おわら風の盆のおわら」の語源は諸説あるが、豊作を願って藁の束が大きくなるようにとの思いから「大藁」が転じたとの説もある。
 この秋の大ききほいかばかりかと案案する。

最近の児童書は子供でなくても楽しめるものが多い。大人も知らない？ふしぎ現象事典に懐かしい人の名前を見かけた。本屋に行くとどういうわけかトイレに行きたくなる。この現象は青木まりこ現象と呼ばれてる1985年「本の雑誌」への青木まりこさん(ペンネーム)の投稿が大きな反響を呼んだことにかのぼる。友人が「書棚を眺めた途端に心配が期待に変わりふと安心してもよおすのでは」と語っていたの思い出す。



将軍の世紀 上巻・下巻

将来に不安を抱く学生自身に、この本に出会って人生の助けになるとの期待である。評論家の外山滋比古さんは知らない本から二冊選ぶのは知的な作業であり、意外に大きな意味を持つ。読んでいる人からもうた本は選択ができない。図書館の本を読むのも他力本願的なところがあるからだと、人生への期待を伴う知的

家康の本質は世界的に稀有な軍人政治家だったところにある。

關原の戦いにおける冷徹な政治リアリズムによって形作られた天下取りの大局面は天皇家と法度の内側へと追いつみ豊臣家を滅ぼすことで徳川の世を現出した。その強靱なシステムは、四代家綱時代の文治政治への転換、八代吉宗時代の享保の改革などを経て、十一代家齊の化政時代を生み出すまで続く。しかし半世紀に及ぶ家齊の時代こそが徳川の世の終わりの始まりだった。

司馬遼太郎
 濃尾参州記(糸
 街道をゆく四年三
 一九九六年八月十五(絶版)